

千代水地区 地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和7年7月30日(水) 18時30分～20時00分
- 2 場所 千代水地区公民館
- 3 出席者 地区10名 市11名【危機管理部長（危機管理課）、都市整備部長（都市企画課）、学校保健給食課、市民生活部長（協働推進課）】
- 4 テーマ 地域の交通安全、防災対策について
- 5 概要

【地元あいさつ】

本日はカムチャッカでの地震、津波により太平洋側が大変な状況である。また、連日の猛暑で皆さんが大変な思いをされており、安全安心な生活は未来に向けて私達に課せられた課題ではなかろうかと思っている。本日のテーマは、交通安全と防災対策としている。交通安全については地区内に国道9号、29号の幹線があり、さらに南北線の計画があるようなので、それを踏まえて地区内の交通がどんな状況であるのか、行政はどういう考えで取り組んでいるかお聞かせ願えればありがたい。

千代川は、従来蛇行していた曲川をまっすぐにして今の千代川がある。元々千代水地区は江津、秋里、安長、徳吉、晩稲、南隈の6地区が集まった地域だったが、千代川のショートカットによって秋里、江津は千代川の東側として分断され、西側には一部が商栄町として存続している。今となっては、千代水地区公民館は千代水地区全体でみると隅の方に位置しているが、過去の歴史があってこの地にあるということである。裏のパチンコ店の辺りを整備するようなことも聞いており、この辺りが空白、空き地になる可能性がある。有効利用とも言えないが、地区として地区公民館がどの位置にあれば皆さんの来やすいのかといったことも、これから考えていかなければと思っている。

本日は普段なかなか話ができない者同士で話をさせていただきたいと思う。よろしくお願いしたい。

【市民生活部長あいさつ】

前回の平成30年の千代水地区の地域づくり懇談会でも、防災力の向上がテーマだった。千代水地区といえば、平成29年に青年会議所とともに、地区体育館を活用して1泊2泊の避難所体験をされたことが印象に残っている。本日のテーマも地域の交通安全と防災対策ということで、住み慣れた地域で安全安心に暮らしていくためにどのように備えてどのように対応していくのかを皆様と一緒に考えていくことは、非常に大切なことだと思っている。

本日の未来づくり懇談会が皆様との話し合いを通し、次世代の子ども達に未来を引き継ぐ懇談会になればよいと思っている。有意義な意見交換をしたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

テーマ「地域の交通安全、地域の防災対策について」

【地元(説明)】

《テーマの背景》

- ・商業施設や企業などが多く立地し、渋滞や交通事故等が頻発しており日常生活に危険を感じている。
- ・水害発生時には、地区公民館などの拠点避難所がなく、地域組織での避難所運営や災害対応ができない状況にある。
- ・他の災害発生時には、地域外の方も多いため一時避難で来る可能性が高く、避難所の容量オーバーによる運営不全が懸念される。

《地域の取り組み》

- ・まちづくり協議会の防災、防犯部会を中心に交通安全や防災体制に努めている。
- ・子どもの自転車安全教室などの交通安全啓発活動や教育委員会の通学路の安全点検、安全対策を要望して対応を求めている。
- ・公民館まつりで炊き出し訓練を行い、自衛隊にも参加いただき2日間の防災訓練、地区体育館でのお泊り体験を行っている。

《課題・質問》

- ・渋滞回避のため町内の狭い市道の通り抜けが多く、事故にならなくても日常生活に危険を感じている。日常生活において渋滞による緊急車両の到着遅延が懸念され、また災害発生時には、避難行動の遅れが心配される。
- ・今後、給食センターの設置、国による南北線の建設に伴い更なる交通量の増加が懸念されるが、当地域の交通安全、渋滞緩和対策の計画や道路管理者（国、県、市）と警察の対応はどうなっているか。
- ・当地区は、千代川や野坂川に隣接している地域で洪水による災害の危険を抱えているが、公共施設が少なく、指定緊急避難所である地区公民館、地区体育館は洪水時の避難所として機能しない。住民は、洪水時の避難場所に不安を感じており、民間借上げを含め、避難所の整備、指導を要望したい。
- ・災害時の避難所となる地区公民館は、地域外の方（商業施設の客、企業等）も多く一時避難で来られる可能性が高いため、混雑整理等の避難所運営のサポートをお願いしたい。
- ・他地域（県内外）において商業地域特有の防災対策など参考事例があれば情報提供して欲しい。

《課題・質問》地域の交通安全について

【都市整備部長】

交通安全について。水田がまだ残っていた当時は、現在の湖山街道が国道9号だった。その後、9号バイパスの完成により自動車の通行量が増加し、その後南バイパス、今で言う国道29号の4車線が設置され、さらに通行量が増加したという歴史があると認識している。併せて、湖

山街道には商業施設がたくさん入り、買い物客が集まってきて、ある意味鳥取市の中でも発展してきた地域だと思っている。

ただ、その開発された区域に多くの自動車が通行したり、従来からの古い集落内を抜け道として自動車が通行したりということでお困りになっており、今回テーマとして挙げられていると思う。

こうした中、国土交通省による南北線の計画がある。これは、一見すると国道9号や国道29号のように自動車がどんどん入ってくるように感じられるかもしれないが、実際には交通渋滞の解消が目的の一つになっている。例えば、山陰道や鳥取道から入ってきた自動車は、国道29号に入り国道9号に抜けていくため、幹線道路が渋滞していると、自動車が抜け道として市道に入ってくるが、南北線は高架なので、南北線が開通すれば、通過する自動車は千代水地区内に降りずに走行すると想定している。

そういったことにより、今は千代水地区に用事のない人が自動車で通行し砂丘に行っていたというようなこともあるが、南北線完成後は幾分緩和されるのではないかと考えている。南北線は千代水地区の渋滞緩和対策の切り札であると考えている。

これから国がインターチェンジなどの詳細設計をするが、ただ道を作ればよいというわけではないので、例えばより効果的な渋滞緩和対策について、今日のような地区からのご意見、ご要望をお伝えするなど、本市からも積極的に働きかけていきたいと考えている。

【学校保健給食課】

給食センターは、現在実施設計を行っているところであり、今後、入札を行って工事発注していく。鳥取警察署の向かい側の草むらになっている方の野球場の上に南北線が走る計画で、その残地に給食センターを建設する計画を進めている。

渋滞緩和や交通安全については、給食センターは基本的に平日昼間、学校がある時のみの配食となるので、夏季休業中や大型連休などは休みになる。配送車は、2t車が8台程度で2往復し、配送時間は10時半から12時、回収が13時から14時半ぐらいの間になる。もとの第1センターと湖東センターの管内を担当し、小学校16校、中学校5校、義務教育学校1校への配送である。配送車については、市道湖山商栄線から国道9号、国道29号といった幹線道路に出ていくようにしている。

配送以外の給食の調理食材等の搬入は、朝の7時半までには配達いただく予定としており、職員も朝早くから調理等に携わるため、朝7時から7時半の間には出勤し、15時半から16時の間には退勤することとなる。

今回の敷地が市道に面していることもあり、道路管理者である本市道路課とも協議を進めているし、工事が始まるので、近隣の鳥取警察署とも協議を進めている状況。ご心配もあるかと思うが、子ども達の学校給食のためにご協力いただけたらと思う。

【地元】

ユニクロの辺りが非常に混み合っていて、左右どちらにも出られないような状況なので、少しでも緩和できたらと思っている。また、信号機設置の管轄は警察だと思うが、自転車も多いので、なか卯からカラオケ館の間のどこかに押しボタン式の信号機を設置してほしいと思う。見通しが悪く、自動車が走る最中でも通行の間を縫って年配の方や若い方、勤務される方など、道路を渡る人が非常に多く、日々危ないと思っている。

【協働推進課】

信号機の設置については、警察において信号機間の距離や交通量、危険度などの基準に基づいて設置の可否を判断される。

交通規制に関することは警察の所管となるので市が設置することはできないが、町内会や地区の総意として安全対策上必要だということであれば、警察に要望書を提出されれば対応していただけのものと考えている。

【地元】

信号機について、間隔が近すぎて設置できないのであれば、例えば市道を少しずらして安全確保するとか、抜け道になっている市道を拡幅するなどのハード面での対応は、どのように要望すれば叶うのか。以前、通学路の安全点検に何年も携わっていたが、ゼロ回答が多いので要望する意味がないと強く感じている。

歩道拡幅ができないのであれば歩車道の分離、よくあるのが黄色いラインを引いて認識させる方法は費用も安い。

【都市整備部長】

信号機を設置するためだけに古くから使っている道に移設するとなると、地域の皆様の合意も必要となるだろうし議論が必要かと思うが、まずはその必要性について考えることになると思う。

他地区の例では、ハード対策の前に、例えば道路に緑色のカラー塗装をして通行規制をしたり、ゾーン30など特に通学路で運転者が見て分かるような状況にして自動車のスピードを落とさせるといったソフト面での対応が、現在の安全対策の入口となっている。

どこの道路でも歩道を設置して拡幅できればよいが、実際いざ拡幅しようと思えばさまざまなハードルがあり、また、土地の提供もいただかなければならないので、なかなか進まないのが現状である。決して門前払いということではないが、道路の利用状況や抜け道する自動車の通行量を調べた上で、必要であればそれなりの対策は行っていく。道路拡幅ばかりが対策ではない。

道路管理者がするものではなく皆さんの同意の上で警察が行うものではあるが、場合によっては一方通行にするなどの選択肢もあるのではないかと考えている。

《課題・質問》地域の防災対策について

【危機管理部長】

千代水地区は、屋内の指定避難所として地区体育館と地区公民館の2か所を指定している。鳥取市街地は、本来指定してはいけないような場所に避難所を指定している状況である。鳥取市全体を通じて、レッドゾーンやイエローゾーンの指定区域が多く、ハザードがかからないエリアは本当に少ない。地理的な特性と、市民の安心安全というところで苦慮しているのが正直なところである。

【危機管理課】

本市では、複数の民間施設と協定を締結している。防災マップでは、緑の丸で囲まれているのが民間施設である。千代水地区の近隣では、鳥取大学、イオン鳥取北店駐車場、ワールドカップ鳥取店駐車場、また、マップには出ていないが安長の鳥取トヨペット社屋、これらを一時避難場所として利用させていただき協定を締結している。ワールドカップ鳥取店は平屋建てなので、使用するのには主に地震の時だと思うが、イオン鳥取北店は立体駐車場であり、鳥取トヨペットも1階から3階が駐車場になっていて上の方に避難できる。市からの要請により、こういった施設を一時的な避難場所として開設し、ご利用いただけるような体制をとっている。

その他最近では、鳥取県警察の旧免許センター2階をお借りできないか協議したが、交通機動隊の事務所で使用されているとのことだった。また、現在整備中の鳥取市公設地方卸売市場について避難所として使える所がないか検討したが、災害時においても物流拠点として休みなく稼働が必要な施設であることや、2階部分が少なく避難できる場所の確保が難しいとのことだった。現在は工事中ということもあり、市の避難所としての活用は難しい状況である。

地域の皆様の方でも、ここはどうだろうかという施設があれば、お教えいただけたら当たってみたいと思う。

また、市内には独自に民間施設と協定を結んでいる地区がある。美保南地区は近くのジャンボマックスというパチンコ店と、立体駐車場を一時的な避難場所として使用できる協定を締結されている。市の避難所として使用するにはそこまで多くの人を受け入れられないが、普段の地域内での関わりの中で、地域の力になりたいと協定を締結していただける事例はあろうかと思う。

協定の締結方法や内容をご相談に乗らせていただくことができる。事業者との協定締結もご検討いただけたらと思う。

【危機管理部長】

鳥取市内には400か所以上の避難所があり、どこに避難していただいてもよい。必ず千代水地区内の避難所でなければならないといったことはなく、とにかくご自身が安全だと思う所に率先して避難し、命を守っていただくのが大前提である。例えば布勢の県民体育館に行ってもよいし、危険エリアではない大規模な避難所もある。

地域で避難行動についての勉強や研修をされる中で、この避難所の辺りまでなら行けるのではないか、この避難所なら自動車で30分から40分程度かかるのではないかと、といったようなこ

とも一緒に話し合っただき、千代水地区に限定するのではなく、どうすれば難を避けられるかということを考えていただくことをお願いしたい。

【地元】

町内の備品がたくさんあり、保管庫を作ろうかという話になっている。その際、昨今の状況を鑑みて防災物品も購入し保管したいという話が出てきた。その場合、どのような物を揃えればよいか。市に指針はあるか。

【危機管理課】

特に指針はないが、市の準備品を一つの参考にしていただければと思う。

避難生活が長期になることが想定される場合に向けては、市では簡易ベッドやプライバシー保護のための仕切りパーテーション、寝泊まりするための毛布の備蓄を進めている。その他には水や食料である。水は1人1日3L必要と言われている。食料では、アルファ化米という、湯を入れたら食べられる米の備蓄も進めている。水や食料は、原則は個人で必要なものをご準備いただきたい。防災マップにもご自宅で備えておいていただきたい物品の例を挙げている。水や食料品、常備薬などは非常持ち出し品として、基本的には3日分程度を目安に備えておくことをお願いしたい。その上で、簡易ベッドや資機材は市でも準備する。

なお、食料については、防災訓練に合わせて地区で購入し、日付の古い物を炊き出し訓練などで使用して新しい食料と入れ替えられている地区もある。

市役所危機管理課窓口にお越しいただければ、他地区の事例も含めてご案内が可能である。また、危機管理防災コーディネーターという相談をお受けしてアドバイスできる職員もいるので、ぜひご利用いただければと思う。

【危機管理部長】

非常持ち出し品や備蓄品を各ご家庭に揃えていただくことについて、地区を挙げて運動していただければありがたい。行政が用意する備蓄も限られるし、地区で倉庫を建設して備蓄するのも費用面で難しいだろうと思う。地区で備蓄したいということであればもちろん市として支援もさせていただくが、基本的には個人が「非常持ち出し品」としてご家庭である程度用意していただくことが大事だと思う。

千代水地区では日頃から防災訓練などをしていただいているので、そういった機会にご家庭での非常持ち出し品の準備について声を掛け合っただければ大変ありがたい。

【危機管理課】

課題の2点目、「災害時の避難所に地域外の方や商業施設のお客さん等々もたくさん来られる可能性が高く、混雑した場合等の避難所の運営のサポートをお願いしたい」について。

地区公民館を避難所として開設した場合、市職員が避難所運営に配備される。多くの人が避難され、現状での対応が難しければ追加で職員を派遣し対応できるようにする。

ただ、地震や水害も急に状況が悪化することもあり、市職員も間に合わない場合も想定される。市職員の避難所運営は避難所運営マニュアルに従って行うが、職員が間に合わない時があるので、地域の皆様も防災訓練の機会に避難運営マニュアルを参考にさせていただいたり、内容を共有しながら訓練していただけると、市職員と地域と連携して避難所運営をする場合もスムーズにいくと思う。

また、多くの人が避難して来る可能性もあるとのご意見について。本年4月に市が防災ポータルサイトを立ち上げた。これはインターネット上の防災専用サイトで、防災に関する情報、河川の水位、避難情報がどこに出ているかを地図で見ることができ、避難所の開設情報や混雑状況なども表示している。満員になっている避難所にどんどん人が押し寄せるのではなく、空いている避難所に誘導する意味合いもある。特に若い方などは今後このアプリを活用していただけると考えており、周知を進めていきたい。

次に、他地域における地域特有の防災対策など参考事例について。

地域の事業所と合同で避難訓練をされている地域がある。また、福祉施設やデイサービスセンター、入所施設があればそちらも合同で避難訓練をされる事例もある。その他、先ほど地域で独自に民間施設と協定を締結されている事例をご紹介したが、それ以外にも地域内のスーパーとの協定で、災害時に弁当など食料を提供いただけるようにされている地域もある。

市全体で協定を締結するといった対応まではなかなか難しく、普段お世話になっている地域でという前提のもとでだと思うが、事例として参考にさせていただきたい。

【地元】

平日に災害があった場合にどの程度避難者がいて、どの辺りに避難するというシミュレーションは作成しているか。選択肢がたくさんあれば、満員になっても別の避難所を案内できるが、千代水地区は避難所が少なすぎる。

地区内の避難所が満員の場合にどこの避難所に行くのか想定されているか。また、住民基本台帳上の人数ではなく、もう少し人が多い日中に災害が発生した場合のシミュレーションはしているか。鳥取市としてそういう想定をしているのか、または想定していないから個人で勝手に逃げてくださいますのか、どちらか聞きたい。

また、市が千代水地区内のどこに災害物資を配送するか知りたい。

【危機管理課】

先ほど部長も申し上げたとおり、誰がどこに避難してもよいので、地区の人口等を根拠として避難者の人数を見積もることは難しい。

中には避難が必要ない方もある。こういった状況で避難が必要なのか、防災マップ59ページに掲載している。これは、千代川が堤防を越えたり、堤防が決壊して発生する水害を想定した千年確率の最大限の浸水想定である。

想定浸水深が、濃いピンクの5メートル以上になると2階も水没するような状況になるので、避難所や今いる所と違う場所に行かなければ命が助からないことになる。ただし、安全な所にいて難を避けるのが「避難」なので、必ずしも避難所に行くことが全てではなく、例えば知人のお宅でもよい。今いる所から、とにかく安全な場所に逃げるのが水平避難である。

想定浸水深が3メートルから5メートルという状況の時も、2階の床上が浸水するレベルなので水平避難となる。

千代水地区で多いのは、それよりも少し薄い色の0.5メートルから3メートルの浸水で、1階が床上浸水するかしないかのレベルである。そういう状況では、命を守るための行動としては、避難所でなくても、今いる建物の2階に垂直避難していただいて、水が引くのを待っていただいてもよい。

避難を可能とするためには、日頃から、そこに留まるのに必要な必要最小限の水や食料を蓄えていただくことをお願いしたい。防災マップの中で、着色のないエリアや0.5メートル未満の所は、特に避難しなくてもその場に留まっても大丈夫というところもある。

湖山地域はマップに着色がなく浸水の恐れがほばないような状況なので、台風などの場合には、早い段階で湖山地区公民館や湖山西地区公民館を自主避難所として開設することがある。千代水地区で千代川に近い場所にお住まいの皆様としては、千代川の決壊の心配があるだろうが、千代川から離れることで時間稼ぎになり、より命を守る行動ができると思う。地区外にはなるが、早い段階で湖山など安全な地区に避難することもご検討いただきたい。また、県民体育館も大規模施設でたくさんの方の受入が可能なので、ぜひご検討いただきたい。

必要な物資等については、それぞれの避難所の避難者数に応じて、市が物資を輸送して対応することとしている。

【危機管理課】

地震はいつ発生するか分からないので、水害と違って備えることが難しいが、2000年以降に建てられた家屋は基本的に倒壊しない基準になっていて、実際に震度7が何度も発生した能登でも、倒壊し住めなくなった家はほばなかったとの報告がある。ただそういう中であっても、家具が転倒して怪我をされることもある。もし2000年以降の家屋におられるような場合であれば、家の中の転倒防止等をしていただければ安全に過ごすことができると思う。

2000年より前の家屋であれば、何かしらの被害の発生が想像される。市でも耐震診断や耐震改修補助の制度を設けているので、それらの制度を活用して地震に備えていただきたい。

《課題・質問》その他

【地元】

防犯上の観点から、リバーサイド安長付近は住宅街で街灯が少なく、夜歩いている時に暗いと思うことがある。

【協働推進課】

防犯灯が必要と思われる場所があれば町内会で話し合われて、町内会から協働推進課に申請していただければ対応させていただく。

【地元】

他の町役場では、新規分譲の時に防犯灯は業者で設置してほしいと言われる。
鳥取市と他の市町で全部見解が違うものか。

【協働推進課】

鳥取市では、町内会からいただいた防犯灯設置等のご要望をもとに予算を確保し、市が発注した請負業者がLED防犯灯の設置や交換等を行っている。県内市町村では鳥取市と同様に直営で行っているところや、町内会が設置し、その経費に対して市町村が補助するところもあり、実施方法は一律ではない。

【地元】

6年前まで千代水分団の分団長をしていた。今回のテーマとは少し違うが、把握しておいてほしいことがある。

千代水地区は旧6か村の町内から団員を出して団を構成しており、新しい町内会もできて何人か分団に入っている状況である。

この自治会からこれまで江津、秋里、南城北、晩稲、南隈が抜けたが、守備位置は旧千代水の時のままになっている。抜けていった町内会には、団員を出さないところもある。千代水地区は川を挟んで東西に分かれているが、例えば江津の浜坂に近いエリアや、賀露の手前の晩稲の方まで千代水分団の範囲となっており、行政と町内会とが全然かみ合っていない。市もこの現状を把握し、守備範囲や団構成を検討してほしい。

【危機管理部長】

現在、消防団員は1,300人ほどの定員に対して1,200人ほどで、欠員の状態が続いている。人口が減少し高齢化を迎えている中で、消防団員の確保が非常に難しい時代になってきた。今後の消防団の全体的な構成、団員数に合わせた再編も考えていかなければいけないと思っている。ご意見を参考にさせていただき、地域にご迷惑がかからないよう考えていきたい。

【地元】

給食センターが2階建てとの話が出たが、別予算で3階を建て、防災拠点として備蓄したり避難所を設けることはできないか。調理器具もあるので、災害時には調理も可能である。検討してもらえるか。

【学校保健給食課】

避難所になるかどうかは危機管理課とも協議が必要になると思う。

あくまでもまだ実施設計中なので明確なことはお伝えできないが、給食センターは耐震対策と水害対策を行いたいと考えている。また地域防災計画においては、大規模災害発生時の炊き出しを行う場所として位置づけられているため、電気が止まって調理場が使えなくても、災害用の煮炊き釜などを準備して対応できるようにしたいと考えている。

【地元】

1年に1回くらいの頻度でゲリラ豪雨が発生し、野坂川が氾濫して町内を通る用水路から水が溢れることがある。南安長、安長、リバーサイド安長など土地の低い所が浸かりやすい。子どもの通学路となるダイソー安長店の前も登校する道路が低いため浸水し、登校できなかった。

そのような道路の上がり下がり、凹凸を修繕できないか。また、浸かりやすい町内の対策として用水路の清掃など可能な範囲でもしていただけるのか。

【都市整備部長】

ダイソーの横の辺りは南北に細い水路がたくさん流れている。昔は大きな雨が降っても、雨水は田んぼの中に溜まって徐々に流れたが、周辺の大きな店舗の開発により田んぼがなくなり、雨水が一気にあふれ出す状況があることは認識している。

本来であれば水路の改修が必要であり、下水道部が計画に基づいて整備していくということになると思う。ただしそれには時間が必要である。

現時点では水路の維持管理が大切で、ご指摘の水路はごみが水流をせき止めていたことが過去にある。できれば地域の一斉清掃で取り除いていただけるとありがたい。地域で対応できないようなごみがあれば、早めに市にご連絡いただければ、流れを阻害する物は市で除去することになると思う。

道路の凹凸について、陥没は道路課が修繕させていただくが、おそらく今いただいたお話は少し違うように思うので、まずは地域の皆様に清掃しながら状況を日々観察していただき、障害物があるようなら、早めに市にご相談いただきたい。

雨が降って水がいっぱいになってきたら、それはもう排水能力を超える雨が降っているということである。今しばらくは、そういう場所には近づかず事故を防いでいただきながら対応していただきたいと思う。

【下水道企画課補足記載】

千代水地区においては、雨水計画の必要断面が確保されていない箇所について順次対策を行っていく方針であり、現在は、雨水の排水先である晩稲川に近い千代水一丁目や商栄町などの下流側より整備を進めているところです。

水路の清掃については、可能な範囲で地域や自治会等での活動として取り組んでいただいているところですが、作業が危険な場合や土砂の堆積が著しい場合等については、状況に応じて市で清掃実施いたします。

また、自治会等で行っていただいた水路の清掃で出たごみなどは、市で回収いたしますので、下水道部下水道管理室までご連絡ください。

【市民生活部長】

地域のさまざまな事情や、市が把握できていなかったこともお聞かせいただいた。今後の検討課題としたい。本日は、地域防災や交通安全について皆様と一緒に考える機会をいただいた。市としてしっかり検討していくので、地域の皆様にもご協力、ご支援をお願いしたいと思う。

【千代水地区副会長】

千代水地区では、今年からコミュニケーションツールとしてデジタル化を進め、LINEで皆さんを繋いだ。私は地区副会長兼デジタル推進委員として取組を進め、少しずつ根付いてきている。

デジタル化は決してコミュニケーションをなくすことではない。地域のコミュニケーションの良い材料となって、より皆さんが繋がってきつつある。現時点で、紙ベース以上の情報交換ができていると自負するところまでまだいかないが、だいぶ前に進んでいるということで報告させていただき、最後のご挨拶とさせていただきたいと思う。